

通所サービスで注意したい 感染症と観察・対応のポイント

有限会社 **ファイブアローズ**
あおぞら介護塾 塾長 **岩下由加里**

関東通信病院（現・NTT東日本関東病院）にて看護師として勤務した後、在宅医療・介護事業の経営管理を学ぶ。2004年、弟妹と共に茨城県水戸市にて有限会社ファイブアローズを設立。あおぞらデイサービス水戸をはじめとした4カ所のデイサービスと在宅介護支援事業を運営するほか、現在は法人内の人材育成機関である「あおぞら介護塾」の塾長として、内外の人材育成に力を入れている。看護師、社会福祉士、介護支援専門員。



- インフルエンザ、肺炎、ノロウイルスについての基礎知識を学ぼう!
- 通所サービス場面での観察ポイントをケアに生かそう!



介護現場における 感染症発生の現状

通所サービスにおける感染や食中毒にどのように対応するのかが、ケアの質を示す上で重要なポイントになります。たとえ介護が必要になった利用者であっても、さまざまな感染症から守り、健康を維持することができれば、少しでも元気になれるかもしれません。

また、感染症の集団発生などは、各事業所がこれまで利用者や家族、地域との間に築いてきた信頼にも大きなダメージを与えてしまいます。しかも、介護スタッフ自身の健康を害する可能性もあり、自らの身を守る意味においても、正しい知識に基づいた予防・対策・対応を心掛けたいものです。

本稿では、通所サービスにおける秋から冬にかけて特に気をつけたい感染症に焦点を当て、感染

予防・対応について実践的に理解を深めていこう
と思います。

通所サービスで注意したい 感染症とその特徴

●インフルエンザ

インフルエンザは、利用者だけでなく職員にも感染しますし、全国的に流行することもあります。さらには、その発症後に肺炎へと移行する利用者も多いので、注意が必要です。

特に2009年は、新型インフルエンザが世界的に大流行しています。ちょうどこの原稿を書いている今も、筆者の住む茨城県では、大多数の小学校が夏休み直前に学級閉鎖の処置を取ったようです。

高齢者や糖尿病、透析などの治療中の人は、重症化すると考えられますので注意が必要です。今

後も新型インフルエンザがどのように変化していくのかわかりませんし、子どもを育てながら働いている介護スタッフに感染する可能性は高く、介護スタッフが仕事を休まざるを得なくなることも予想されます。それが集団的に発生すれば、通所サービス業務が遂行できなくなってしまう、さらに大きな問題を引き起こしかねません。長い期間通所サービスが閉鎖していると、自宅での介護を続けることができなくなってしまう家庭が増える可能性もあるのです。

(1) 症状とその特徴

国立感染症研究所感染症情報センターによると、「発熱・頭痛・全身の倦怠感・筋関節痛などが突然現われ、咳・鼻汁などが相前後して続き、

約1週間で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状である」とされています。通常の風邪とは異なり、突然に高熱や頭痛などの強い症状が現れるのが特徴です。

(2) 通所サービスにおける感染経路

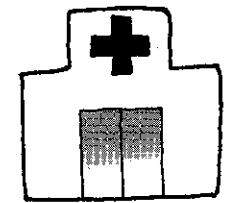
インフルエンザは、咳、くしゃみなどによる飛沫に含まれるウイルスを、口や鼻から吸い込んでしまうことにより感染（飛沫感染）します。

通所サービスの利用者は、その多くが毎日家族と接触しています。家族は通常、仕事などで外出する機会が多いため、感染の機会も多くあることが想像できます。したがって、通所サービスでは、家族が接触する膨大な数の感染源との接触をどのように管理するのかという問題もあるのです。

point

最近では、インフルエンザ抗原を簡単に診断できる検査方法が確立したので、病院ですぐに診断できるようになりました。さらに、タミフルやリレンザが登場し、発症後48時間以内に内服できれば、短い期間で治療できるようになったそうです。特に高齢者の場合は、インフルエンザが原因で肺炎となり死亡してしまうケースも多いので、「48時間以内に対処できるかどうか」が重要なポイントとなります。

予防方法としては、毎年予防接種が浸透しています。できれば、家族にも接種してもらえよう指導するように努めましょう。もちろん、通所スタッフは全員接種しましょう。



発症から48時間以内に
医療機関へ

●肺炎

肺炎は、高齢者の死亡原因の中で最も大きな割合を占めています。筆者が経営している4カ所のデイサービスでも、利用者の入院や死亡を極力少なくしようと要介護度改善介護に力を入れているのですが、肺炎による入院や死亡をゼロにすることができません。試行錯誤をしながら毎年いろいろな取り組みをしています。

特に、通所サービスの利用者が入院することは、人情的に悲しい出来事であると同時に、経営的な面からの収入も減少します。さらに、病院への入院は、たとえ肺炎が治って退院できたとしても、そのほかの生活不活発病を招きかねません。

注意したいのは、肺炎の中でも高齢者に最も多い誤嚥性肺炎は、感染性ではないということです。ご存じのとおり、誤嚥性肺炎は食べ物や飲み

物を誤嚥してしまうことにより生じます。

(1) 症状とその特徴

肺炎の多くが肺炎球菌という原因菌により感染し、発熱、咳、痰、呼吸困難、全身倦怠感（全身がだるくなる）、胸痛などが主な症状となります。風邪症状である咳、鼻水、喉の痛みなどから始まり、喉が炎症し、その炎症が気道を通じて肺へと進んでしまった時に、肺炎と診断されます。

肺炎まで進んでしまう場合についてはいろいろな原因が考えられますが、もともと持っている肺

疾患や免疫力にも左右されるようです。特に、栄養状態のよくない場合は免疫力も弱いので、風邪をひいた時の回復が遅くなり、肺炎を引き起こすリスクが大きくなります。

高齢者は痩せていると思いがちですが、痩せているということは栄養状態が悪い場合が多く、すぐに風邪をひきやすく、さらには肺炎にもなりやすいのです。

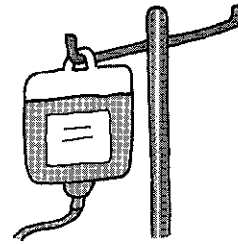
(2) 通所サービスにおける感染経路

肺炎の感染経路はインフルエンザと同じです。

point

インフルエンザはウイルスによるものですが、肺炎のほとんどが菌によるもので、抗生物質が効果的です。高齢者の多くは入院となり、点滴でブドウ糖や抗生物質を投与し、安静にして、栄養のある食事を取りながら治療します。体力がある場合には自宅での療養も可能ですが、その場合は訪問診療や訪問看護などの支援体制が重要となります。

肺炎球菌に対しては予防接種を受けられますが、日本では一生に1回と決められています。しかも、有効期間は5年間です。あまり早い年代で予防接種を受けると、その後に接種ができなくなりますのでご注意ください。また、この予防接種は高齢者のみが対象ですが、インフルエンザのように行政の助成はありません。病院によって金額が異なりますので、確認してから利用者にお勧めしましょう。



高齢者は、入院となる場合が多い

●ノロウイルス（感染性胃腸炎）

ノロウイルスは、食中毒による感染性胃腸炎であり、毎年のように高齢者施設の集団感染が話題になります。

(1) 症状とその特徴

下痢や吐き気、嘔吐、腹痛、発熱などの症状があり、通常は1～2日程度で治癒すると言われています。

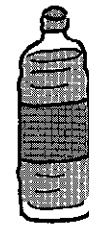
(2) 通所サービスにおける感染経路

汚染された貝類を、生、または十分加熱しない

まま食べることが、感染の主な原因です。通所サービスでは、感染した便や嘔吐物を処理した後のスタッフが、手洗い・消毒が不十分なまま食品を扱ったことにより、二次感染として集団感染を引き起こすことが多いと言われています。また、ケア中に感染した便・吐物が飛び散って口に入ってしまうことにより、スタッフが感染する場合があります。

通所サービスの食事では、生の貝類を出すことはあまりないと思われるので、自宅での食事でも感染することが多いかもしれません。

point



水分補給が重要

ノロウイルスに対する特効薬は発見されておらず、症状を緩和する治療方法しかないと言われています。例えば、下痢や嘔吐がひどい場合には、水分補給のために点滴をします。また、下痢を止めない方がよいという考えもありますが、あまりにひどい時には下痢止めが必要となる場合もありますので、症状に応じて医師に相談しましょう。入院するほどではない場合は、水分補給のために人肌に温めたスポーツドリンクを摂取します。水分だけでなくミネラルなどの電解質の補給も重要です。

通所サービスに感染症を持ち込まない・広げないために —注意・観察が必要な場面と「おかしいな」と思った時の対応

●迎えに行った時

感染症は、その多くが発熱を伴うことが多いので、迎えの際に「元気がない」「顔色が悪い」「赤い顔色をしている」などの症状に気がつくことが大切です。また、「家族に熱を測ってもらう」「体温測定ができるように体温計を常備する」などの工夫をしながら、「おかしいな」と思った時には、在宅中の状況を利用者や家族に確認しましょう。そして、発熱や咳がある場合には、ほかの利用者やスタッフへの感染も考えられるため、サービスの休止も検討しなければなりません。軽い場合には、マスクを必ず使用するなどの配慮も必要です。

事業所到着後には、手洗い・うがいを利用者、スタッフともに忘れないよう徹底しましょう。

●事業所到着後のバイタルチェック

バイタルチェックでは、体温、血圧、脈拍の測定をしています。それぞれの数値ももちろん重要ですが、「咳」「のどの痛み」「痰」「鼻水」「下痢」「嘔気・嘔吐」「気分不快」「元気がない」「顔色」など、全身状態を観察しましょう。特に発熱がある場合には、そのほかの症状とも合わせて、主治医の受診を勧めた方がよいでしょう。



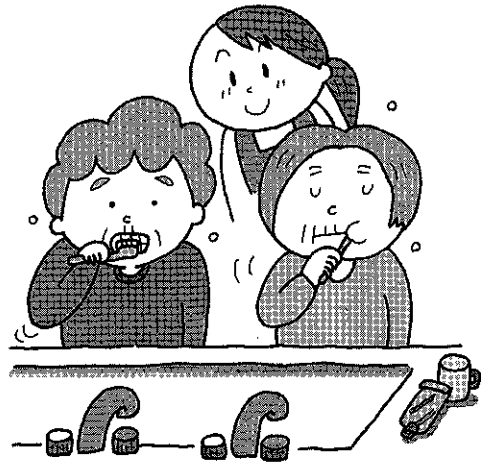
利用者を迎えに行った時に状況を確認しよう

●トイレ介助

ノロウイルスは、便や嘔吐物により感染が広がります。下痢便の処理後には、必ず手洗いをしましょう。また、処理時にはウイルスを含んだ便が飛び散る場合もあるので、マスクをすることが望まれます。下痢便で汚れた衣服についても、マスクをして、消毒してから洗浄しましょう（ミルトンやハイターなどの漬置き消毒で十分です）。

通常、下痢をすることのない利用者が急に大量

ブラッシングなどのマウスケアは、
利用者の命を守る！



の下痢をした場合には、食事内容を確認し、腹痛、
発熱などがなければ観察する必要があります。症状
が強い場合には、主治医への受診を勧めましょう。

●食事場面

前述しましたが、通所サービスの食事で生の貝
類を出すことは勧められません。新鮮な食材でも、
きちんと熱処理をする必要があります。

また、手洗いの徹底が行き届いていない事業所
では、食事前にトイレ介助をして、利用者もス
タッフも手洗いをしないまま、食事のテーブルに
つくことがあるかもしれません。新型インフルエ
ンザの流行で、テレビなどでも繰り返し説明して
いましたので、手洗いの意識は高まったのではな
いかと思いますが、徹底して実行しなければ意味
がありません。特に、小規模の通所サービスでは、
介護スタッフと調理スタッフが同じ場合もあるの
で注意が必要です。

そして、近年注目されている「マウスケア」は、
感染性の肺炎だけでなく、誤嚥性肺炎予防にも効
果があると言われています。口の中の汚れが肺に
入ると、肺炎の原因になるのです。つまり、ブ
ラッシングによって歯垢や歯石、舌の汚れである
舌苔を取り除いて清潔にすることが、利用者の命
を守るのです。当デイサービスでも、マウスケア
の徹底により肺炎になる利用者数は減少しました。

「小さなルール」の厳守

感染予防の取り組みとしては、手洗い、うがい
の日常的な実践が最も重要です。さらには、軽く
咳が出る時でもマスクエチケットを守るという意
識も必要です。もちろん、スタッフ自身の健康管
理も大切ですが、咳が出る時でもどうしても休む
わけにはいかない場合もあると思います。その場
合には必ずマスクを着用し、利用者やほかのス
タッフに影響のないように配慮しましょう。

このような「小さなルール」を全スタッフが厳
守することが、より良質な介護実践へとつながる
のです。

今年の冬は、インフルエンザ、肺炎、ノロウイ
ルスなどに感染する利用者がゼロになることを目
指して、力を合わせて頑張りましょう。

引用・参考文献

1) 国立感染症研究所感染症情報センター：インフルエンザ
総説
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/intro.html> (2009年8
月閲覧)

質の向上と業務のスリム化を可能にする！

デイサービスの仕事術

小さな変化から始める
「介護力」「観察力」「記録力」向上のポイント

有限会社ファイブアローズ
あおぞらデイサービス水戸 管理者 岩下由加里氏



札幌 10/24(土) 道特会館 大阪 10年1/23(土) 田村駒ビル
仙台 10年2/20(土) ショーケー本館ビル 広島 10年3/13(土) エソール広島
本誌購読者:15,000円 一般:18,000円(共に税込)

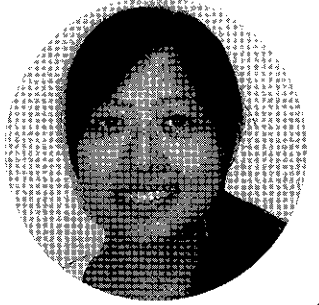
時間も人手も少ない中で、「また利用したい」と思われる、
魅力あるデイサービスを作るために

- なぜ業務に時間がかかり過ぎるのか
～通所介護にありがちな問題点
- 少ない時間で作成する通所介護計画
- 効率よく記録を書く！通所介護記録の記載ポイント
- 標準化の有用性
- これからのデイサービスに求められる人材の育成

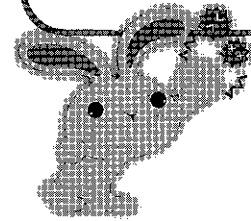


インフルエンザ・ノロウイルスの 注意点と家庭でできる感染予防

監修：デンタルサポート株式会社 高橋のぞみ
医療事業部 看護師



2004年看護専門学校卒業。横浜にある消化器外科の病院で病棟勤務を経験した
後、デンタルサポート株式会社に入社。主に直営の有料老人ホームや、高齢者専
用賃貸住宅に属している介護事業者スタッフを対象に、疾患や応急処置法、感染
予防実技などの勉強会を行っている。歯科、医科、介護のワンストップサービス
の提供を目指し、利用者に優しく質の高いケアを心掛けている。



自宅や外出先での感染を防ぎ、
元気に通所サービスを利用してもらう！



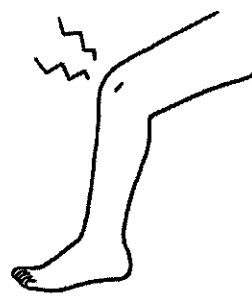
インフルエンザ

インフルエンザは感染力が強く、広範囲で流行を起こします。また、ウイルスの型が
変わりやすいものもあるため、免疫（抗体）を持ちづらく、症状が重症化することや致
死率が高いことも特徴です。

インフルエンザに感染するとどうなるの？

インフルエンザは風邪に似た症状をもたらします。次の症状が現れた時には、すぐに
医師の診察を受けるようにしましょう。

関節痛が
5日間ほど続く



38~40℃の
急な高熱が出る



症状が出てから48~72時間（2~3
日）経過すると、インフルエンザウイ
ルスの数が増え始めますが、その前に
抗インフルエンザ薬を内服することで
病状の悪化を予防できます。

それ以上経過すると、「熱を下げる」「咳
を止める」などの対処療法しかできなくな
るため、結果として治療に必要な期間も長
くなってしまいます。